

一部週刊誌の記事に関する声明

学校法人鎮西学院

学院長・大学学長 姜尚中

いわれなき中傷については、黙殺することが最善の策かもしれません。しかしながら、いわゆるフェイクや虚言が跋扈する由々しき状況に至っている昨今の風潮に照らし、私自身が学院長および学長の重責を担っている立場であることに鑑み、あえて声明を発する次第です。

この件に関する当法人の意思として、当該週刊誌の出版元に対し、当法人名での抗議の文書を発出しており、詳しくはそちらに譲りますが、私の心境は、再び夭折の詩人の詩を引用すれば、以下の通りです。

「死ぬ日まで天を仰ぎ 一点の恥じ入ることもないことを、葉あいにおきる風にすら 私は思いわずらった。星を歌う心で すべての絶え入るものをいとおしまねば そして私に与えられた道を 歩いていかねば。今夜も星が 風にかすれて泣いている」(尹東柱『空と風と星と詩』金時鐘訳)

今も私は一点の曇りなく、学院のために挺身して来ましたし、何ら恥じることはありません。

私は、本学学長就任以降、教職員の皆様と苦楽をともにしながら、校名および学部・学科の名称変更ならびに種々のカリキュラム変更に代表される数々の改革を成し遂げて参りました。おかげをもちまして、その結果、唯一、長崎県内の私立大学の中で定員を充足し、今年度(2025年度)は、3学科とも定員を充足するという、開学以来の業績を上げることができました。

確かに、本学は、地方の高等教育機関の中でも小規模といえるでしょう。しかしながら、「小さくてもキラリと耀く存在感」というがごとく、本学は、確実に地域社会の活性化に貢献しております。すなわち、かつての慢性的な定員割れおよび経営難の状態から脱却し、地域貢献型の人材を育成し輩出する高等教育機関として広く認知され、今後ますます成長・発展の途を歩むべく、着実に前進を続けております。しかるに、あたかもこれに水をさす誠に心外な出来事に見舞われたことに対し、遺憾の意を強くするとともに、嘆かわしく、悲しい心持を抱くほかありません。

そもそも、私と本学との縁は、かつてある私立大学の学長として改革に取り組んだ経験を活かし、本学の顧問に就任して欲しいという前理事長の強い懇請に端を発します。私は、この長崎という地において、伝統ある本学を、歴史の波に埋没させることなく発展させることこそ使命と考え、学院長および学長の職を拝命し、その業務に奮闘しながら今日に至りました。

本学においては、既に種々の改革が実現いたしました。しかしながら、大学においては、理系人材の養成を目的とした新学部の開設を控えており、高等学校においては、新校長の主導のもと抜本的な教学改革をさらに推し進めなければならない状況です。加えて、先の第三者委員会の調査報告書でも指

摘されたとおり、持続可能な総合学園としてのガバナンス改革にも、誠心誠意、取り組んでいる最中です。そのため、私は、これらの改革を実現・達成するためにも、引き続き学院長および学長の職にある者として、自らの責任を完遂する決意です。

教育機関の最大のステークホルダーは、そこに集う学生であり、また、その保護者です。そのご期待に応えるため、今後とも本学の改革を推し進め、長崎県、九州、ひいては日本を代表するミッションスクールとして雄飛することができるよう、魯鈍に鞭打って職務を励行する所存です。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。